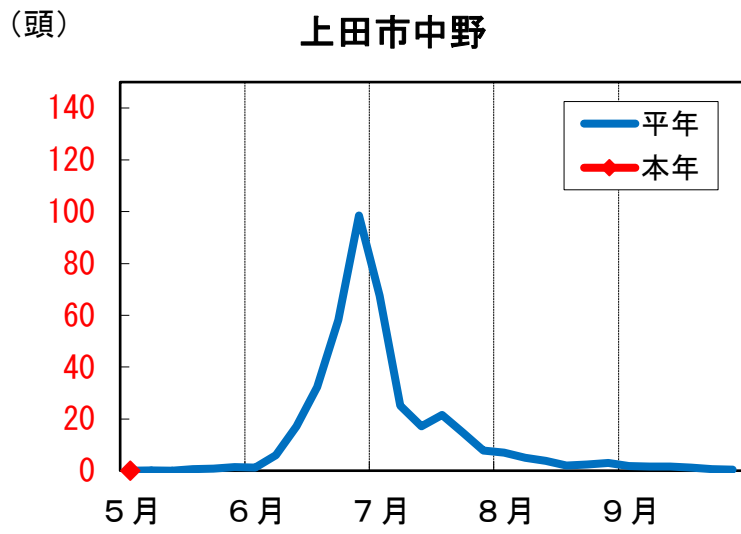
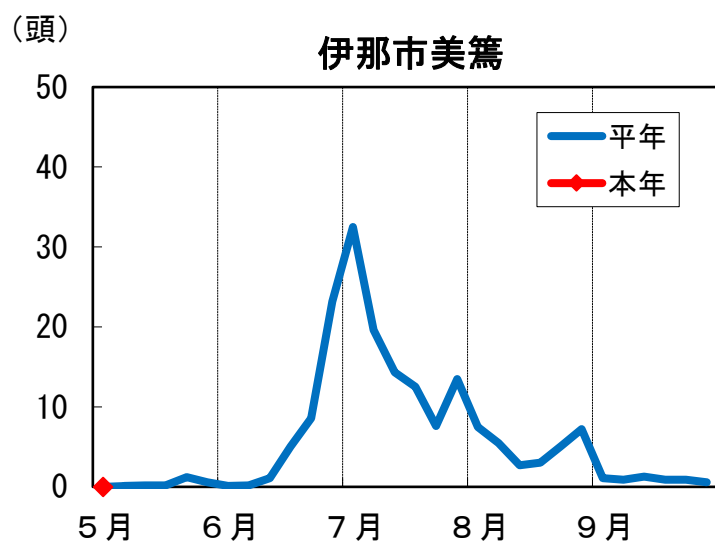


# 予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺消長【令和8年(2026年)】

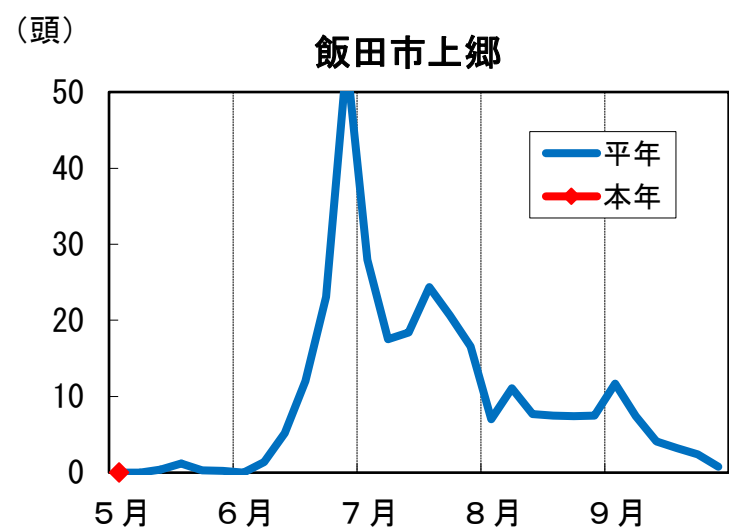
・5月第1半旬現在、いずれの地点でも誘殺はありません。



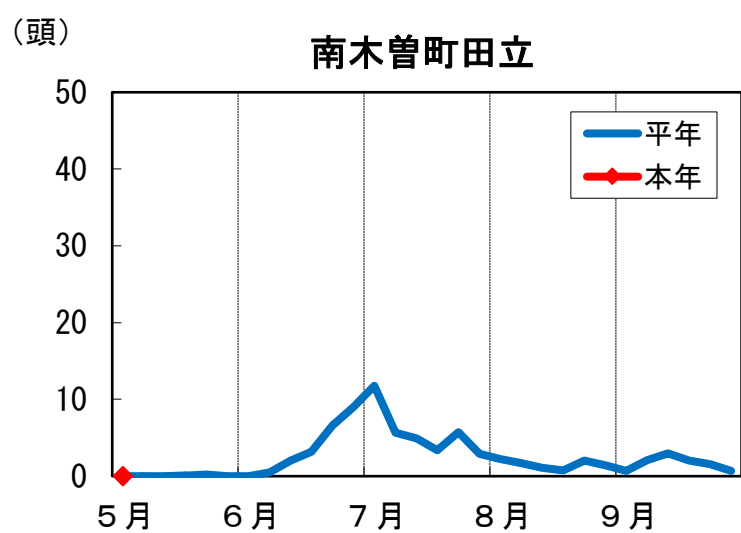
※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



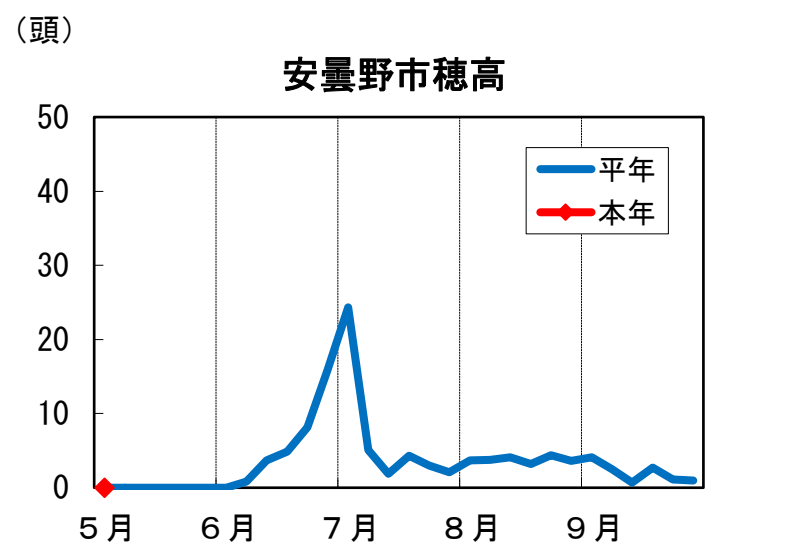
※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



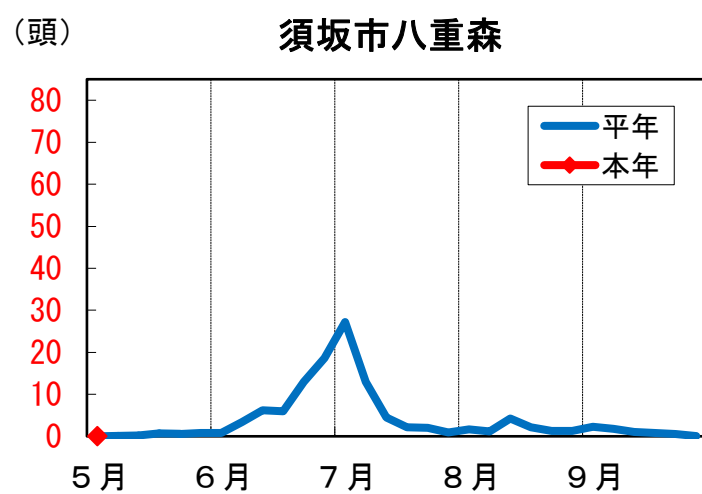
※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



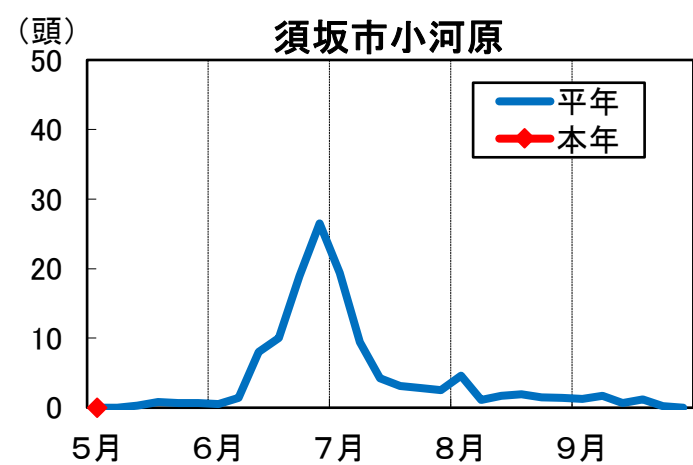
※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均



※平年:平成28年~令和7年(10年間)の平均

## (参考)

### 1 発生生態

斑点米を発生させる主要害虫のアカヒゲホソミドリカスミカメは水田周辺の雑草地で年4~5世代発生を繰り返します。主として7月中旬以降に発生する第2世代成虫がイネの出穂に伴い水田へ侵入、稲穂にとりついて吸汁加害します。出穂期の早い早生品種で被害が多くなる傾向にあります。上のグラフは予察灯(ライトトラップ)で捕獲された成虫数です。

### 2 防除時期・対策等

出穂期10日後に防除を実施し、常発地では7日~10日後に追加散布を行います。粒剤は効果の発現までに時間を要するため、3日程度早く処理します。田畦畔の草刈りは出穂2週間前までに実施し、出穂直前はカメムシを水田内に追い込む恐れがあるため行いません。